

# 地域創生推進事業 北方領土モノがたり事業

根室振興局の独自事業として、平成30年度から「北方領土モノがたり事業」を実施しています。この事業は、北方領土隣接地域として領土返還に向けた世論の機運醸成を図るため、北方領土問題に「触れる」「学ぶ」「知る」の3本を軸に、根室管内の魅力（自然・歴史・文化・食など）を活かし、観光と連動した北方領土問題の啓発活動を展開していきます。

## 野付通行屋・番屋跡遺跡を訪ねる 北方領土遺産ツアー 《触れる》



野付半島ネイチャーセンターでの遺跡に関するレクチャーの様子



遺跡で見つかった磁器などについての解説がありました。

野付半島の先端にある「野付通行屋跡」を訪ねる北方領土遺産ツアーを別海町郷土資料館との共催により4月22日（日）に実施しました。

かつて国後島に渡るための要所であった「野付通行屋跡遺跡」に触れてもらうことで、北方領土問題に対する興味や関心を高めるとともに一層の理解促進を図ることを目的に、別海町郷土資料館と連携して実施しております。

～「野付通行屋」について～

・寛政11年（1799年）に江戸幕府が国後島へ渡るための交通の要所として野付半島の先端に設置した宿泊施設です。

・寛政元年（1789年）に起こったクナシリ・メナシの戦いや寛政4年（1792年）にロシアの使節であるラスクマンが来根するなど、国防上の問題が北海道（当時は「蝦夷地」）にあったこと、また、野付半島が国後島へ渡る最短のルートであったことなどから設置されたのではないかとされています。

・平成15年から17年にかけて別海町郷土資料館による発掘調査が行われ、遺跡の全長が明らかとなり、遺跡の機能を想定できるまで整理することができたとのことです。調査の結果、建物の位置、お墓の位置、畑の跡などが発見され、また、陶磁器類などの遺物が約1万2千点ほど出土しています。

・野付半島には幻の町「キラク」があったという伝説があります。「キラク」には武家屋敷や遊郭、鍛冶屋などたくさんの建物が立ち並んでいたと言われていますが、明確な証拠はなく、歴史ロマンをかき立てる物語として語られています。

## 北方領土モノがたり事業展示会など 《学ぶ》

公益社団法人北海道倶楽部と連携し、東京で開催された交流イベントにおいて、根室管内の訪問客拡大のための観光PRや北方領土問題の理解を深めるパネル展の実施しました。（平成30年10月19日）

また、北方領土遺産パネルを制作し、公益社団法人千島歯舞諸島居住者連盟が札幌市地下歩行空間で開催したイベント「学ぼう北方領土」において展示しました。（平成31年3月2日～3日）



交流イベント出展ブース



北方領土遺産パネル展